？？？「反転感情増幅銃？」

畑渚

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

百合戦域に新たな流れを――

この商品は相手の人形の感情を反転させ、さらに増幅させるというものになっております。使用方法は銃のように狙い撃つのみ。詳細スペックはＷｅｂ上の説明書を御覧ください。

――我々は所内の全百合カプを応援します。

目次

FAL57 ―― 1
カルカノ姉妹 ―― 5
945 ―― 10
SASSNTW ―― 16

ＦＡＬ５７

コツコツ
５７「はぁ、連日の任務は疲れるわ。報告書も書かないといけないし」
５７「あら？何かおちてるわね。……銃かしら。側面に何か書いてるわね」
コトリ
５７「反転感情増幅銃？」
５７「どうしてこんなところに落ちてるのかしら？面白そうね、ＦＡＬに使ってみようかしら」
コツコツ
ＦＡＬ「ちょっと５７、どこにいったのよ……」
５７「なんて良いタイミング♪えい！」
ギョーン
ＦＡＬ「ちょっと５７、なによその銃。遊んでるつもり？」
５７「あら、故障？おかしいわね」
ギョーンギョーンギョーン

ＦＡＬ「……」
５７「もしかして効いてる？」
コツコツ
（無言で５７の横を通り過ぎていく）
５７「ちょっとＦＡＬ？」
（無言で５７をにらみつける）
５７「ＦＡＬ……？」
ＦＡＬ「何でしょうか？私は急いでいるのですが」
５７「!?」
ＦＡＬ「そういえばＦｉｖｅ―Ｓｅｖｅｎ、先日分の報告書が未提出ですよ」
５７「わ、忘れていたわ」
ＦＡＬ「……はぁ、では代わりに私がしておきますので。それでは」
５７「それはルール違反じゃないの？」
ＦＡＬ「かまいません。手間も省けますし」
コツコツ
（こっちを見ずに廊下を歩いていく）
５７「ちょっとＦＡＬ！」

ＦＡＬ「何でしょうか？」
５７「あなたキャラがおかしいわよ？どうしたっていうのよ」
ＦＡＬ「言いたいことはそれだけですか？」
５７「えっ？」
ＦＡＬ「あいにく嫌いな人と会話する趣味は持ち合わせていないので。では」
コツコツ
（振り返らずに廊下を歩いていく）
５７「ど、どうなっているのよ……」
５７「まさか……この銃が？いやでもまったく別人みたいじゃない。マインドマップを書き換えるなんて相当な……」
指揮官「あっ５７！ここらへんで銃みたいな落とし物がなかった？」
５７「こ、これかしら」
指揮官「それそれ！……ってこれ使っちゃった!?」
５７「ええ、そしたらＦＡＬがおかしくなっちゃって」
指揮官「バッカモーン！」
５７「ひゃあっ！」
指揮官「そいつは不良品で増幅幅がランダムなんだ！たぶん４回くらい撃つと最大幅

を引いて、めっちゃ嫌われる。それこそあのＧのつくヤツくらいに」
５７「そ、そういうことだったのね」
指揮官「某マッドサイエンティストの報告書でこれを見つけて急いで回収しに来たんだけど、手遅れだったか……」
５７「ごめんなさい。……ＦＡＬは元に戻るの？」
指揮官「カリーナにバックアップを保護してもらってる。適用させればすぐに戻るよ」
コツコツ（廊下の曲がり角から猫耳のシルエットが現れる）
????「やあやあ、面白いものをみせてもらったよ」
５７「そのダウナーみたいな声は！」
指揮官「ちっもうここまでたどり着いたか。そいつは私が処分しておく！サラバダ！」
５７「あっ指揮官、いっちゃった……。でも面白いＦＡＬが見れてアタシも満足したわ」
（自室へと戻っていく）
５７「こ、故障じゃないのよね？あれはＦＡＬの本音じゃないのよね……？」

カルカノ姉妹

カルカノ姉「よし、新しい衣装もできたし妹にみせにいこうかな」
姉「ん？なにか落ちてる……反転感情増幅銃？」
コトリ
姉「ふむふむ、感情を反転させると……」
姉「これを使ったら妹が素直になったりするかしら」
カルカノ妹「あれ、お姉さん？こんなところでなにを」
姉「なんてタイミングがいいのかしら、それ」
ギョーン
妹「？」
姉「あ、ごめんね。これはちがうの」
妹「お姉ちゃん？もうびっくりしちゃったよ。かまってくれるのはうれしいけどさ」
姉「!?」
妹「に？どうしたのお姉ちゃん、鳩が豆鉄砲をくらったみたいな顔をして」
姉「お、お、お姉ちゃん？」

妹「だ、だめでしたか？」
あざとく首をかしげる
姉「ぜんぜん良いよ！むしろそっちのほうが良いよ！」
妹「それは良かったです。それよりもその手に持ってる銃はなんでしょうか？」
姉「こ、これ？……そ、それよりもこの服つくったの良かったら着てみてくれない？」
妹「そ、それは……いわゆるメイド服というものでは？」
姉「あ、嫌ならいいんだよ、断ってくれて」
妹「ぜ、是非お願いします。お姉ちゃんが作ってくれた服はその……私も好きなので」
姉「……カハッ（吐血）」
妹「お姉ちゃん!?お姉ちゃ～ん！」

＝＊＝＊＝＊＝

姉「はっ！ワタシったら妹の可愛さについ意識を失ってしまったみたい」
姉「いったいどれくらいの時間眠ってたんでしょうか」
妹「お姉ちゃん、起きましたか？」
姉「あれ？どうしてここに」

妹「ワタシ突然倒れてしまったお姉ちゃんが心配で心配で」
姉「……そう、ごめんね」
妹「いえ、存分に堪能しましたから」
姉「た、堪能？」
妹「ええ」
姉「それは何を？」
妹「……それは秘密です（顔真っ赤）」
姉（いったい何をされたんだワタシは……）
指揮官「おっと手が滑った！」
妹「強制スリープコマンドを確認。スリープモードに移行します……ｚｚｚ」
指揮官「あぶないところだった」
姉「指揮官!?どうしてここに」
指揮官「それよりもカルカノ姉、変な銃を妹に使わなかった？」
姉「な、なんのことかわかりません」
指揮官「うーん、ダウト。妹に続いて姉までも嘘つきになっちゃったのかな～？」
姉「そんな！ワタシも妹も元から素直で――」
指揮官「認めなさい。あなたの妹は元々は本音を言えない性格のはず」

姉「……ん？そうです！これは感情を反転させるものであって性格を捻じ曲げるものでは」
指揮官「かかったな！その銃は没収！」
姉「うわーん！でもどうして妹は素直に？」
ガラガラガラ（救護室に入ってくる猫耳シルエット）
姉????「それはその銃が未完成品だからよ」
指揮官「まずい！これは貰っていく。妹はもう直してあるから気をつけて。あばよ～！」
姉「あっ指揮官！……行ってしまった」
姉????「まったく。あんな未完成品を持ち出されるこっちの気持ちにもなってくれよ」
姉????「まさか指揮官があの銃を盗んで？」
「いや、私が適当な被検体で試そうとするのを阻止されているだけさ。それじゃあ私は指揮官を追うよ」
姉「あっ……行ってしまった」
ガラガラガラ
妹「あれ、お姉さん起きてたんですか」

姉「お見舞い？それに花まで、ありがとう」
妹「！べ、別にお姉さんのことが心配で来たわけではありません」
姉「着ている服が私が作ってあげた物なのは？」
妹「た、たまたまです！ちょうど着る服を切らしていたから仕方なくです」
姉「……なんかやっぱりこっちのほうが落ち着くな～」
妹「何がですか！」

９４５

９「４５姉どこいくの？」
４５「指揮官に報告書を出してくるわ」
９「私もいってもいい？」
４５「ええ、いいけど」
９「やったー」
カツカツカツ
９「あはは、自殺対策強化月間だって！人形ばっかなのにこんなの張り出して意味があるのかなぁ」
４５「少なからずこの基地にも人間はいるでしょう？ん、なにか落ちてるわね」
コトリ
４５「銃……試作品かしら。なになに、反転感情増幅銃？」
９「わっ！」
４５「きゃっ！」
ギョーン

４５「はっ！つい反射で撃っちゃった。大丈夫!?」
９「なにその銃。私はどうともないよ？」
９「というか後ろから脅かしただけで即座に反応して撃つって……指揮官にはそんなことしたらダメだよ？」
４５（おかしいわね……この銃が壊れているようには思えないけど）
９「それより４５姉、指揮官のところに行かなくていいの？」
４５「ええ、そうね。いきましょう」
９「うん！」
カツカツカツ
４５（この銃をハッキングできるかしら……）
４５（保護プログラムは……このパターンはあの人のプログラムね。なら簡単に解除できるわね）
４５（うーん、変なところは見当たらないわね。やっぱり壊れてないのかしら？）
９「なにか考え事？」
４５「え、ええ。少しね」
９「あんまりぼーっとして歩いてると危ないよ？」
ギュッ

４５「ちょっと９、歩きづらいからいきなり抱きつかないで」
９「照れなくても良いんだよ４５姉～」
４５（いつもと同じ９ね）
４５（ちょ、チョット待って？感情が反転した結果がこの行動なら……）
４５（実はいつものは大好きという演技だったという可能性も……）
９「４５姉？」
４５「９、あなた指揮官のことは好き？」
９「と、突然何!?す、好きだよ？」
４５「４１６とＧ１１は？」
９「好きだよ？どうしたの突然」
４５「じゃ、じゃあ私はどうかしら？」
９「えっ……そ、その……好きだよ」
４５（あれ？なんで私のときだけそんなに苦しそうな表情を浮かべるの？）
４５（この反応は嘘っぽい気がするわね……）
４５（銃が効いているなら９は私だけが好き、効いていないなら９は私だけが嫌い）
４５「あーもう！どっちなの」
指揮官「突然部屋の前で騒ぐのはどういう了見で？」

４５「し、指揮官！」
指揮官「まあ良い。それよりもその銃……まさか使ったとか」
４５「そ、そんなわけないじゃないの～」
指揮官「使ったんだな……使っちゃったんだな！このバッカモーン！」
４５「きゃあっ！」
９「ま、まって指揮官！４５姉は確かに私に向けて撃ったけど、何も起きなかったよ！」
指揮官「そ、そんなわけ……確かに壊れてる」
４５「えっ!?」
指揮官「作動しなかったのか。それなら良かった」
ガチャリ
????「壊れたものは直す！技術者として当然のことだよね」
指揮官「や、やばい！サラバダ！」
パリーン（最後のガラスをぶち破れ）
????「今日こそは逃さないよ！」

４５「はぁ、いったいどういうことなのよ」
９「まあ何事も無くて良かったね、４５姉」
４５「そういうことにしておきましょうか……帰りましょう、９」
９「あっごめん、私寄っていくところあるから」
４５「わ、わかったわ。先に戻っているわね」
４５（銃が作動しなかったということはやっぱり９は私のこと……）
カツカツカツ

９「は、はぁー」
９（やっと４５姉が行ってくれた。もう我慢できなかったから本当に良かった）
９「確かここらへんの引き出しに……」
ガラッ
９「人形を一時間前の状態に強制的に戻す端末……」
９「これって悪用したらいろいろできる気がするけど……まあいいや」
（不明なユニットが接続されました）
９「これも完成品じゃないのかな、上手くいきますように」
（システムに深刻な障害がｇｇｇ……）

９「はぁ、本当に良かった。４５姉に嫌いって言う前に終わってくれて……」

（システムに甚大な被害が出ています）

（強制再起動を実行します）

ＳＡＳＳＮＴＷ

「君に新たな任務を言い渡す」

ＮＴＷ―２０「なんだ？それに指揮官は？」

????「これは極秘任務よ。これを任意の人形に撃って欲しい。大丈夫、害はないはずだから」

ＮＴＷ「反転感情増幅銃？なんだこれは」

????「その名の通りよ。一応基地内の人形のバックアップは済ませてある。存分に楽しんでくれたまえ」

ＮＴＷ「う、うむ。了解した」

＝＊＝＊＝＊＝＊＝

ＮＴＷ―２０「とは言ったものの、私と交流のある人形なんて」

Ｓｕｐｅｒ　ＳＡＳＳ「せんぱ～い！お昼一緒に食べましょ～！」

ＮＴＷ「そういえばＳＡＳＳがいたか」

ＮＴＷ「すまない、これも任務なんだ」
ギョーン
ＳＡＳＳ「せん……ぱい？」
ＮＴＷ「ＳＡＳＳ、気分は悪くないか？」
ＳＡＳＳ「突然なんですか！味方に銃を向けるなんて」
ＮＴＷ「！」
ＳＡＳＳ「そもそも先輩は自分の意見は曲げないし、硬派だし、自分のことにも無頓着だし」
ＮＴＷ「ＳＡＳＳ？」
ＳＡＳＳ「そんな先輩が私は……私は！」
ＮＴＷ「私が悪かった！ほら、昼食をとろう！なっ？今日は私のおごりだ。好きなものを選んで良いぞ」
ＳＡＳＳ「そうやって物で釣れると思ってるんですか!?はあ、先輩はこれだから」
ＮＴＷ「……すまない。本当にすまない……」
ＳＡＳＳ「これだから先輩なんてだいっき――」
指揮官「ちょっとまった！」
ＳＡＳＳ「指揮官!?」

指揮官「も～ＳＡＳＳちゃんどうしたの、ＮＴＷちゃん泣いてるじゃない～ってその手に持っているのは!?」
ＮＴＷ「な、泣いてなどいない！これは任務だと聞いたのだが指揮官は知らなかったのか？」
指揮官「バッカモーン」
ＮＴＷ「ひっ、すまない……」
指揮官「と言いたいけど今回は騙されただけみたいだから許す！だけどそれは没収ね」
ＮＴＷ「あ、ああ分かった」
????「ちっ、それを回収されるわけにはいかないよ！」
指揮官「見つかった！サラバダ！」
ＮＴＷ「なんだったんだ……。ＳＡＳＳ、大丈夫か？」
ＳＡＳＳ「せ、先輩……」
ＮＴＷ「ん？雰囲気がいつものに戻っている」
????「バックアップデータから復元しておいたよ。それじゃあ私は指揮官を追いかけるから」
ＮＴＷ「あっ！か、風のように消えた!?」

ＳＡＳＳ「先輩、私……」
ＳＡＳＳ「先輩のこと大好きですよぉ～！」
ＮＴＷ「ちょっ！いきなり抱きつかないでくれ！」
ＳＡＳＳ「うわ～ん！だいっきらいなわけ無いじゃないですか！だから落ち込まないでください先輩～！」
ＮＴＷ「お、落ち込んでなどいない！」
ＳＡＳＳ「えっ？でもさっき泣きそうな顔してたじゃないですか」
ＮＴＷ「き、気のせいだ！それより昼食にしよう！ほら、先輩としておごってやる」
ＳＡＳＳ「もう、そんなことしなくても私は先輩のこと大好きですよ！」
ＮＴＷ「いいんだ。これは迷惑をかけたお詫びだ」
ＳＡＳＳ「う～ん、それじゃああありがたくごちそうになりますね！」
ＮＴＷ「そ、そうか」
ＳＡＳＳ「あ、今ホッとして顔が緩みましたよ！」
ＮＴＷ「な！……き、気のせいだ！」
ＳＡＳＳ「もう、照れてる先輩かわいいなぁ」